

リウマチ・膠原病通信(第4回)

～トピックス～



リウマチ膠原病通信(第4回)は、**関節リウマチの関節外症状・合併症**について

のお話です。外来を受診されたとき、「何か検査多いなあ。リウマチに関係あるのかなあ？」と思われた患者様はおられませんか？

病名に**関節**と名前がついているので、関節症状に注目しがちですが、関節リウマチは関節以外の臓器にも症状・検査異常が出る場合があります！！

<関節リウマチの関節外症状>



- ① **全身症状**：リウマチの炎症が持続するとだるさや微熱、食欲不振、体重の減少がみられます。更には、体が消耗するため貧血が進行することがあります。
- ② **肺**：関節リウマチによる肺炎(間質性肺炎)を合併することがあり、息切れ・咳などの症状が出ます。
- ③ **皮膚**：リウマチ結節といい、肘の外側などに小さなしこりのようなものが出来る場合があります。
- ④ **腎臓・消化管**：関節リウマチの炎症が持続するとアミロイドと言われる蛋白が作られるようになり、腎臓や消化管に蓄積します。程度が強くなると、腎障害や下痢、胃潰瘍などの症状が出る場合があります。
- ⑤ **血管**：血管にも炎症が起こる場合があります。高熱が出たり、胸に水が溜まったり、痺れが出たりするなど、様々な症状が出現します。このような血管炎を合併した場合を「悪性関節リウマチ」と言い、通常のリウマチ治療だけでなく、ステロイドによる治療が必要となります。

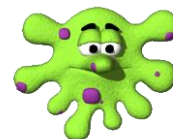
⑥ **眼**：ドライアイの症状(目の異物感やショボショボするなど・・・)が出ることもありますし、角膜潰瘍を引き起こす場合もあります。内科では眼の診察は出来ませんので、時々は眼科を受診して下さい。

<関節リウマチの主な合併症>

① **環軸椎亜脱臼**：首の1番目と2番目の頸椎が脱臼することがあります。ズレが大きい場合は手術が必要となる可能性がありますので、整形外科の先生の診察を受けて頂く場合があります。

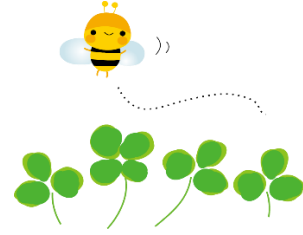
② **骨粗鬆症**：関節に炎症が持続すると骨の破壊が起こります。また、治療でステロイドを内服されている場合も骨粗鬆症のリスクが高くなります。

③ **感染症**：もともと、自分の免疫が自分自身を攻撃する自己免疫疾患であるため、治療により免疫を抑制します。その結果、感染症にかかりやすくなるため、外出時の手洗い、うがいなどで予防するようにしましょう。外来では結核や真菌(カンジダやアスペルギルスなどのカビ類)なども痰の検査や血液検査で適宜チェックしています。



※このように関節以外の症状の確認をするために、胸のレントゲンやCTなどの画像検査、尿検査など様々な検査を組み合わせることで患者様の状態を把握していきます。

もちろん、上に記載した症状がすべて関節リウマチによって引き起こされるわけではありませんが、全身を診る必要がある病気です。患者様それぞれ合併症も異なるので、検査させて頂く項目も異なります。



～コラム：リウマチ友の会を知っていますか？～

公益社団法人 日本リウマチ友の会は、関節リウマチの患者様同士が「リウマチに関する正しい知識を広め、リウマチ対策の確立と推進を図り、リウマチ性疾患を有する者の福祉の向上に努める」という目的で発足しました。

現在、約 15000 人の会員(リウマチ患者、患者家族、医療・福祉関係者)がおられ、全国に支部があり、医療講演会や相談会などが行われています。また、医療情報や知っておきたい制度、会員の体験を載せた『流』という機関紙が年間数回発行されています。

今回、外来前のボックスに『流』を数冊見本として置くこととしましたので、興味のある方は参考にしてください。

※リウマチ外来へ通院中の患者様へのお願い

2015 年度の『関節リウマチ(RA)調査』のアンケートを診察時にお渡しします。今後のリウマチ性疾患における病態解明のため、アンケートにご協力頂ければ幸いです。なお、有効なデータが得られた場合には、このリウマチ通信を通して患者様と情報を共有出来ればと考えております。

- 次回(第 5 回)のリウマチ膠原病通信は「リウマチ体操：手指・肘・肩・下肢」を掲載予定です。

文責 リウマチ外来 吉田 周造、吉川 紋佳